

12月



あの日のあの川 リレー日記 ～第77話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんほどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第77話主人公 佐々木倫

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：千葉県根木名川)

「いつまでも記憶に残る景色」

いつのこと？： 小学2年生

どこの川？： 早瀬川(岩手県遠野市)

芦村さんからバトンを受け取りました。筑波大学白川研究室の佐々木倫です。

「あの日のあの川リレー日記」の依頼を受けた時、一番に思い出したのは大伯父に連れて行ってもらった早瀬川でした。

早瀬川は岩手県遠野市を流れる北上川水系猿ヶ石川支流の一級河川です。

小学2年生のときに祖父母と従姉妹と共に岩手県遠野市にある祖母の実家へ曾祖母と大伯父に会いに行きました。

曾祖母の家は夜でも鍵を閉めなかったり、方言が難しかったり、大伯父はスズメバチの巣を保管していたりと、千葉県生まれ千葉県育ちの私は驚くことばかりで興奮していました。そんな姿を見て大伯父は「いろんな経験をさせてやろう」と私と従姉妹を早瀬川に連れて行きました。

それまで川に入ったことも川に行くことを目的に出かけたこともなかったので、何をするのかわからないままだ車に揺られとるえずついていったという感じだったと思います。

「着いたぞ～」と言われ、車を降りると、一面緑と川の水が広がる景色で、川の水は底が見えるほど綺麗で、子供ながらも感動していました。

そんな気持ちで川を眺めていたら、突然大伯父が川に入り、「おいで！」と手招きしました。川に入っているのか?!と驚きながら入ると、夏なのに冷たくてすっきりしていてプールとは全然違う!と驚きました。水を掛け合ったり綺麗な石を探したり、着替えを持ってきていないことも忘れて夢中で遊んでいました。川沿いにそのまま寝転び服を乾かし、帰りの車ではぐっすり、とにかく自由で心地いい時間でした。

あの時に交わした会話はほとんど覚えていませんし、写真もありません。ですが、あの時の景色や大伯父の笑顔は今でも鮮明に覚えています。

(次は藤井さんにバトンを託します)